

土佐往還

添蚯蚓へんろ道

四万十川も そえみみずも、どうして
くねくね曲がっているのだろうか。
地球上に生かされているものは
全て曲線で描かれている。
でも、人がつくったものは直線が多いなあ。
まあ、そんなことを考えずに、のんびり歩きましょう。

(じつは童話)

海月庵の後は
茶店ができて、子どもは
久れまで通学して、
おっかいに行ったり
していた。

ここからはとて楽。

海月庵跡

ほほや向

とても穏やかで、三つな
おかあのお地蔵さま。
(これまで出会った中でも指折の優しさがある)

「いわもと」ではなく「ゆわもと」が本来の呼び名。

(余談) 岩本寺にある高麗嘉兵衛の遍路石は
ここに海月庵にある。

空海が旅の途中、
久れの海に昇った満月に
感動し、ここに草庵を結び
地蔵菩薩と大師自像を
刻み修業したところ。

石だたみ

久れからの魚売り

ユナラの落葉が足にやさしい。
雨の日はスリッパに注意。

自然がくくもは
すべて曲線でできて
いる。
直線でできているのは
人がつくったものだけだ。

弘法清水

山城国森本甚吉
泰納の文師像

長沢

本みみず

左土佐往還

登り口

酔芙蓉

登り仕様
MAP

岩本寺十七九
七子峠四八

土佐往還 添蚯蚓

久れから床鍋を結ぶ往還道
として重要な役割を担い、人や物が
行き来してきた歴史深い道である。
「添蚯蚓」とは、みみずが這う
跡のように曲がりくねっていることから
名付けられたと伝えられている。
望海、元親、一豊、龍馬をはじめ
数えきれない旅人の足跡が刻まれ
そして、今も仏と向き合う多くの
お遍路さんの巡礼の道となっている。

(久れ長沢登り口～床鍋口は約5km)

みたすうたけいり坂をうねみながら登る。
已と向き合い、脈うつ鼓動が
耳をかたおけ、内なる仏に
一心に祈る。
そして顔をあげて、月影は、
森の風を呼吸する。
少しだけ心の重荷が
軽くなる。

床鍋伝説

空海が真言宗の根本道場を
周くべく、四国を行脚していた。
床鍋に来て、「もしやこでは」と
手にしていた仙貝の
独鈷(とっこ)を投げ
占ったことから、とっこ投げが
床鍋になったと伝えられて
いる。

独鈷
とっこ

弘法大師開基
海月庵跡

春は山桜がきれいだねの
夏はホトギスの声響いて
秋はもみじに染まるぞよ。
雪の道もはなもも。

幕末には、四万十川堤防普請の監督に
坂本龍馬も歩いたといわれる。

じっと耳を澄ませば、
千年前の足音が
聞こえてきそう。

